

---

# 愛・コンタクト

きうい餅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛・コンタクト

### 【Nコード】

N6892A

### 【作者名】

きつい餅

### 【あらすじ】

見ていいものと、いけないもの。見ることはできても、見ないほうがいいもの。

世の中には

見てもいいものと

いけないものがある

廊下を独特のステップで駆ける音。

あの口に、  
違いない。

「聞いてええええええ！……るくちやああああん！」  
かなしろ  
奏城るくは、長いストレートの髪をさらりと揺らしながら振り向いた。

叫びながらやってきた宇宙ゆなは、  
るくの肩をがっしりつかむ。

勢いがあつて、すごい力だ、  
るくは圧倒された。

おっと、眼鏡が落ちちゃうじゃないか。

「あたしいい、さほう佐原ちゃんと付き合うことにいい!!」

「おめでよひ」

るくは驚いた様子もなく、さらりと言った。

それが気に入らなかったのか、

驚くと思っていたのだろう、

「なんか、知ってたよな反応だね？」

ゆなは少しふくれ、ゆな、つまらん、と言った。

それを聞いて、るくに衝撃が走った。

そうだよ、

知っていたから、この反応なんだよ

「そつ、そんなことないよ！！おめでと〜！」

心の内とは裏腹に、

わざとらしく手をあげて、”やったー”のポーズをした。

一般の人なら疑ってしまうところでも、

ゆなはすぐに信じるし、疑うことを知らぬようだ。

単純で良かった…

”素直”という意味で、るくはゆなのことが好きだ。

誰に対しても明るく、人見知りのしないゆなだからこそ、

少し”くせ”のあるくくと、中学に入って3年生になる今まで、

ずっと仲良しでいることが出来たのである。

ところであるくの”くせ”とは、ふたつある。

ひとつは、ゆなとは逆に、人見知りだということ。

そしてもうひとつ

私は、このだて眼鏡を外し、

人の瞳を「直接」見ると、

その人の、

今一番愛している人が、見えるのだ

見え方は「幽霊」のようだ

見つめた本人のすぐ横に、ぼやつと顔が見える

好きな人が見えない、ということはない

異性でなくても、親や、友達が一番大事、ということもあるからだ

なぜ見えるのかはわからない

そして、なぜ「わたし」なのかも

この能力により、ゆなと、ゆなのできたて彼氏、佐原君の、好きな人を事前に知っていたので、いつかはこんな日がくると、

驚くこともなかったというわけだ。

わかっているよ

これは、見てはいけないものなんだって

そして最近、もうひとつわかったことがある

私は「恋」をしたことがないし、興味がない  
けど、それは

「あたっ」

るくは頭部に痛みを感じた、ぽかっという軽い音の。

振り向くと、そこには同じクラスの<sup>にいのそつた</sup>新野颯太が、口元をほころばせながら立っている。

いつもいつも、こいつは           ！

「そんなとこに突っ立つてると、邪魔なんだけど？」

言いながら、彼は私のだて眼鏡をはずしてしまった。

こいつはもしかして、私が目が良いことを、知っているのか？  
いや…ただの、いつものいたずらなんだろうな。

「ちよつと           …」

私は、何も遮るもの無しに、彼の瞳を見つめてしまった。

もしかしたら、私は恋をしているのだろうか？

誰だって、自分のことが一番わかっていようで、わかっていない  
のだ

これはその、暗示なんだろうか？

「恋」をしたことがないし、興味がないというのはきつと言いついで

新野は何かといつも、私に絡んでくる。

顔を合わせば、眼鏡ちゃん、と言いつけるし、

自分の身長を生かして、頭をぼんぼん叩き、子ども扱いしてくる。

その度に、私はいらいらしていたのはずなのだが

知っていたよ

私、好きな人があるんだ

だって、彼、今見つめてしまった人の

好きな人だけは、見えないから

「…返して」私はうつむきながら、手を出した。

「…お？今日は、いつになくしおらしい反応じゃん。好きなやつでもできたか？」

新野は片手をズボンのポケットに突っ込みながら、私の眼鏡を返してくれた。

見なかったことにしよう

見ることができても、見ないほうがいいものもある

「そうかもね、できたのかも」

「…まじ？」

私はこれからも、見てはいけないものを見てしまっただろうけど、きつとがんばるから

目と目で見なくても

心の瞳で見ることができるよう



（後書き）

まだまだ未熟です……でも目を通してくださっただけで嬉しいです

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6892a/>

---

愛・コンタクト

2010年11月19日08時04分発行